

## 第3期 平成29年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第4回暮らし部会 議事概要

日 時 平成30年1月29日（月）10:00～12:00

場 所 区役所本庁舎6F 第4委員会室

出席委員 川村委員、長谷部委員、小野委員、余委員、丁委員、金（朋）委員、梶村委員、井上委員、ファトマワティ委員、森田委員 10名

欠席委員 郭委員、センブ委員、鈴木委員、バーバー委員、安藤委員、本多委員 6名

### 1 開会

### 2 今後の審議スケジュール

事務局から今後の審議スケジュールについて説明があった。

### 3 多文化共生まちづくり会議「中間のまとめ」の報告

事務局から、中間のまとめ（案）からの変更点について説明があった。

委員から、審議の最終報告において、加えたい点等について意見があがった。

- ・外国人住民の人口データをグラフとして加えたい。
- ・SNSについて、具体的にはどのようなものか解説がほしい。

### 4 暮らしに関する課題解決のための具体策の個別検討

#### 【新宿生活スタートブックの改訂】

『新宿生活スタートブック』改訂に係るこれまでの意見を振り返り、追加意見を募った。

- ・あれもこれもと載せると分厚くなって読んでもらえない。どの程度読んでもらえるのか意識しながら、共有しておきたいルールの最大公約数を探し、掲載量と見やすさのバランスをとる必要がある。
- ・一冊で全てのルールを説明することは難しい。学校や寮のオリエンテーション等の機会にスタートブックを活用してもらい、具体的な説明を加えるのが効果的である。
- ・必要最小限の情報だけ載せ、詳細は区が作成する他の外国語冊子に誘導できると良い。
- ・箇条書きや改行を使って、簡潔な文章にすると日本語初級者が読みやすい。
- ・日本語学校等がオリエンテーションで使うことを考えると、掲載する情報を増やすことに経費をかけるより、印刷部数を増やした方が良い。
- ・QRコードを掲載し、詳細を確認できるページにアクセスできるようにしてはどうか。
- ・新宿区で暮らす外国人は若い世代が多くスマートフォンを使っているため、QRコードでいつでも簡単に情報にアクセスできるようにすると大変便利である。

- ・QRコードでつながった先の情報が日本語ということにならぬよう、つながる先の情報は多言語化を徹底されたい。
- ・情報を紙でなくWEBに公開することで改訂費用が抑えられ、その分、多言語化が図れる。
- ・母語でスタートブックを読めない人のために、なるべく意図が伝わるイラストにしたい。
- ・イラストを追加する経費がない場合は、写真を活用すると良い。

#### ○自転車について

- ・自転車は免許なく乗れることもあり、車より軽い気持ちでルール違反をしてしまうのかもしれない。自転車は軽車両であることを啓発して注意喚起する必要がある。
- ・自転車に乗っているときに事故にあった場合、高額な医療費や損害賠償が発生することから、保険加入を促す文言を追加したい。
- ・自転車を譲り受けた時に防犯登録を変更する必要があることなど、外国人がおそらく知らないであろうことを優先して載せてはどうか。

#### ○ごみについて

- ・「ごみ」を分別することと「資源」をリサイクルすることは分けて説明する必要がある。
- ・箇条書きにして、資源がリサイクルされるまでのイメージを追加した方が伝わりやすい。
- ・分別は燃やしやすいよう、リサイクルしやすいように行うといった説明やリサイクルしたものはこうなるというように、一連の流れを示すとわかりやすい。
- ・粗大ごみ受付センターの電話受付は問答が定型化しているので、会話形式でWEB上に公開し、スタートブックにはQRコードを掲載できるとよい。

#### ○生活音について

- ・集合住宅で暮らす場合、生活音は両隣だけでなく上下からも伝わるため、イラストを修正する際に加えたい。
- ・日本人は傾向として音に敏感であるから、注意喚起する文言を入れたい。

#### 【地域交流実施状況】

事務局から、部会で議論した「文化や習慣を理解し合う交流の機会」の実施状況について報告があった。

委員から、交流の機会を増やすことによって、暮らしに係わる情報が伝わりやすくなるとの意見があった。

#### 5 その他

事務局から次回の会議について説明があった。

#### 6 閉会